

令和5年度 学校経営計画に対する中間報告書(案)

石川県立七尾東雲高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析(成果と後期への課題)	判定基準	備考
1 学習環境の充実と「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業づくり、「わかる授業」の取り組み	① 落ち着いた雰囲気の中で日課をスタートさせるために5分間の朝学習にしっかり取り組ませる。	全学年 生徒指導課	【成果指標】 生徒全員が落ち着いた朝学習に取り組んでいる。	落ち着いた雰囲気の中で、朝学習に取り組んでいると答える生徒の割合が A 95%以上 B 85%以上 C 75%以上 D 75%未満 <b>B 評価 88%</b> (昨年=89%) A 47% + B 41% = 88% 4月～7月 平均1日あたり4.47人	昨年度同時期の遅刻者数は1日平均1.54人であった。今年度の遅刻者数は1日平均4.47人となっている。感染症等の関係から、これまで除外してきた体調不良等での遅刻者も含むため、増加傾向にある。今後、保護者や保健環境課とも連携を密にし、生徒が体調を整え時間に余裕を持って登校し、朝学習に臨むよう指導していきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② わかりやすい授業づくりの一環として、特にクロムブック等のICT機器を効果的に活用した授業づくりに努める。	教務課 各教科	【努力指標】 教員がICT機器を積極的に活用し、授業改善に努めている。	生徒による授業評価において「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 <b>A 評価 86%</b> (昨年=80%) A 55% + B 31% = 86% ※ ただし、実習科目を除く	生徒による授業評価では、教員が「ICT機器を活用している」と回答する肯定的評価は86%であった。昨年度と比較すると、80%から6%増加しており、クロムブック等の活用が進んでいるといえる。一方で、どのような場面でのどのようなソフトをどう活用すべきかなど、様々な課題があり、今後も研究・改善が必要である。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	③ 主体的・対話的な授業づくりを目指し、発表活動を効果的に取り入れ、生徒が意欲的に授業に取り組めるようにする。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が、主体的に授業に参加し、対話的に学習していると感じている。	生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表、学びあいをする場面が多い」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>B 評価 87%</b> (昨年=78%) A 52% + B 35% = 87%	生徒による授業評価において、「生徒が発言や発表をおこなう場面が多い」と回答する肯定的評価は87%となり、昨年度の78%から9%増加した。新型コロナウイルスへの対応の変化によって対話的学習が実施しやすくなり、生徒指導の三機能を活かした授業を推進してきた効果がでてきていると考えられる。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
	④ わかりやすい授業づくりを目指し、板書や教材、話し方や説明などを工夫する。	教務課 各教科	【満足度指標】 生徒が「授業が工夫されていて、理解できた」と感じている。	生徒による授業評価において「授業を受けて理解できたと感じる」「先生の授業は教え方の工夫を感じる」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>A 評価 92%</b> (昨年=85%) A 59% + B 33% = 92%	生徒による授業評価において、「授業を受けて理解できたと感じる」「教え方を工夫している」と回答する肯定的評価は92%であった。昨年度と比較して7%増加し、B評価からA評価となった。「わかる授業」における互見授業などの取り組みの成果がでてきていると考えられるので、今後も継続していきたい。	CまたはDの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の授業評価)
2 生徒の適性に応じた志望進路の実現	① 生徒が主体的に将来の進路をしっかりと考え、進路実現に向けて取り組むよう、各事業の事前・事後学習を充実させる。	進路指導課 学級担任	【満足度指標】 生徒が「進路ガイダンスが主体的に将来を考える上で役立っている。」と感じている。	学校の進路説明会、企業実習等が、主体的に将来を考える上で役立っているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>A 評価 90%</b> (昨年=85%) A 43% + B 47% = 90%	1年生が89%(昨82)、2年生が89%(80)、3年生が91%(94)と進路活動が本格化する3年生の評価は例年高いが、1、2年生の評価も、昨年度より上昇した。進路行事に大きな変更はないので、学年毎の活動の影響が大きいと思われる。今後も学年団と連携して進めていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	各学年の進路行事の際に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 生徒と保護者が進路について話し合う機会を持てるよう、資料や情報を活用しながら面談等で働きかけ、生徒の進路意識の高揚を図る。	進路指導課 学級担任	【成果指標】 家庭で、生徒と保護者が進路について話し合う機会を持っている。	家庭で、生徒・保護者が将来の進路について、話しているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満 <b>B 評価 79%</b> (昨年=80%) A 28% (保 22%, 生 34%) B 51% (保 58%, 生 44%) A + B = 79%	1年生が72%(昨81)、2年生が82%(76)、3年生は87%(97)となっている。3年生の数値が大幅に下がった。求人票をPCやスマートフォンで閲覧できるようにしたものの、話し合いの時間の増加に至っていない。学年ごとに進路について考える時期をこれまで以上に意図的に活用し、話し合う機会の促進に努めていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒・保護者にアンケートを実施する。 (生徒・保護者の学校評価)
	③ インターンシップ前に、実施の目的を丁寧に説明し、基本的な接遇指導を繰り返し徹底して行う。	進路指導課 学級担任	【成果指標】 インターンシップにおける生徒の接遇態度が良い。	受け入れ事業所の実施後アンケートにおいて、生徒の接遇に関する肯定的に評価した企業数 A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満 <b>A 評価 99%</b> (昨年=99%) A 74% + B 25% = 99% 実習日誌(研修担当者評価)	昨年度の協力企業は21社だったが、今年度は18社となった。ほとんどの企業の実習による評価は良好であった。長期型企業研修は、総合学科ビジネス系列は7月に実施し、農業系列と工業科は9月実施予定である。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月の実施後、受け入れ企業にアンケートを実施する。
3 特別活動の推進による学校の活性化と規範意識の醸成	生徒指導課と教職員、公安委員で、朝の挨拶運動に取り組む。	生徒指導課 特別活動課 部活動	【成果指標】 生徒が相手の目を見て大きな声で挨拶できている。	生徒の学校評価において「積極的なあいさつができて」と回答する肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>C 評価 75%</b> (昨年=73%) A 22% + B 53% = 75%	今年度は、4月から、毎朝の挨拶運動を教職員と公安委員で実施した。昨年度より2ポイント増加したが、Aの評価を上げられるよう朝の挨拶運動を継続していき、さわやかな挨拶ができるよう取組を粘り強く進めたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)

重点目標	具体的取組	主担当	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	分析(成果と後期への課題)	判定基準	備考	
	② 生徒のボランティア活動や地域への貢献活動等の参加を積極的に推進していく。	特別活動課 学級担任	【満足度指標】 生徒が、ボランティア活動や地域の活動への参加を通して、自己有用感が高まったと感じている。	ボランティア活動や地域の活動に参加することで、ボランティア意識や自己有用感が高まったとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>C 評価 75%</b> (昨年=69%) A 44% + B 31% = 75%	今年度より取り組んだボランティア週間や学校周辺美化活動やサマーボランティアなどの活動を通して75%の生徒が、自己有用感が高まっているという結果であった。80%まで5ポイント足りてないが今後も学校祭やボランティア週間、20周年記念行事への参加により自己有用感が高まる取り組みを進めていきたい。	Dの場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)	
	③ 基本的な生活習慣の確立のため、1日の活力のもととなる朝食の習慣化を目指した指導を行う。	保健環境課	【成果指標】 生徒が朝食の大切さを理解し、朝食摂取率が向上する。	心と体の健康調査において、朝食を食べていると答える生徒の割合が A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>評価 72%</b> (新設) A 55% + B 17% = 72%	保健だよりの発行や、終業式・始業式等の集会時に朝食摂取の大切さを呼びかけること等を通して、啓蒙活動を行った。夏休み明けで朝食摂取率の減少が心配されたが、72%以上の生徒が朝食を摂取しているという結果であった。今後も朝食を毎日食べるという回答する生徒が増加する取り組みを継続していきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	夏休み明けと12月に生徒にアンケートを実施する。	
	④ 朝の登校指導及び昼の校内巡視を通して、頭髮服装を整えることや、規範意識の大切さを繰り返し指導する。	生徒指導課	【努力指標】 全教職員が共通理解のもと、挨拶の励行や規範意識の向上を図るため、生徒に声かけをしている。	登校指導や校内巡視の際に、生徒に声かけしているとする肯定的評価が A 95%以上 B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満 <b>B 評価 91%</b> (昨年=84%) A 43% + B 48% = 91%	今年度は、4月から毎朝の挨拶運動を教職員と公安委員で実施した結果、昨年度よりも7ポイント上昇した。100%の評価を目指し、昼休みの校内巡視を含め、生徒に対して、積極的に声かけを行い、学校生活全般において、全職員で指導を徹底していき安心・安全に過ごせる環境をつくりたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)	
	⑤ いじめのない学校づくりを目指し、学校生活全般を通して全教職員が生徒の変化を見逃さないような取組を行う。	生徒指導課	【努力指標】 教員が、アンケート調査や面談、校内巡視により、生徒の動向を掴み、いじめの未然防止に繋げている。	アンケートや面談での生徒理解や、校内巡視等を通して、生徒の動向を把握し、いじめの未然防止と早期対策に努めているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>A 評価 98%</b> (昨年=92%) A 43% + B 55% = 98%	6月に全校生徒対象に生徒指導アンケートを行い、気になる生徒にはホーム担任が個人面談を行っている。個人面談以外にも、生徒の変化を見逃さないようにアンテナを高くし、ホーム担任だけでなく、部活動顧問等が必要に応じて面談を行っている。毎日昼休みの学年団による校内巡視と生徒の動向把握を継続し、いじめの未然防止に努めたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)	
4	地域から信頼される開かれた教育課程の推進	① 専門高校として地域社会と連携した実践的な学習を推進する。	各学科	【成果指標】 工業・演劇・農業・商業の分野での地域と連携する事業や学習において実践的な取組が積極的に行われている。	専門学科での地域と連携する事業や学習において実践的な取組ができているとする肯定的評価が A 80%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 65%未満 <b>C 評価 65%</b> (昨年=60%) A 22% + B 43% = 65%	通常の学習活動が再開され、これまで取り組んできた事業や学習のほとんどを実施できた。地元の小中学生を招待して上演した演劇科定期公演以外は、系列や選択者による取組であるため、全体的に評価は伸び悩んでいる。今後は取組を共有し、生徒一人一人の自己存在感や自己肯定感の高まりにつなげていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)
	② 部活動の指導方法等について顧問が研鑽を深め、生徒の意欲を引き出す効果的な指導の工夫・改善に取り組む。また、部加入促進や部員の自信をもたせ、経験を積ませる指導を行う。	特別活動課 学級担任	【成果指標】 1・2年生の部活動参加率が高い。	1・2年生が部活動で、週の活動日に対して、8割以上参加しているという肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>C 評価 79%</b> (昨年=85%) A 58% + B 21% = 79%	昨年度より6ポイント下がった。部活動の未加入者が年々多くなっていることや2年生の参加率が低いことが課題である。今後も生徒への部活動加入を促し、部活での経験を通して自信を持たせ参加率を上げていきたい。また、ホームページなどを利用した部活動の発信を行い本校の魅力発信に努めていきたい。	B以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、生徒にアンケートを実施する。 (生徒の学校評価)	
	③ 本校の教育活動の様子をホームページや校門前掲示板を活用し、学校外部へ効果的に情報を発信する。	総務課 各学科	【成果指標】 学校外部への効果的な情報発信を行うことができている。	本校の教育活動の様子を学校外部に効果的に情報発信ができているとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>A 評価 95%</b> (昨年=84%) A 55% + B 40% = 95%	昨年度、記事作成を全ての教職員にお願いし、より多くの教育活動の様子を発信できるような体制作りをした結果、更新数が増えており、このことが肯定的評価に繋がっていると思われる。また、保護者の肯定的意見も93%と高かった。今後、部活動に関する記事も含めて記事を作成する教職員を増やし、効果的な情報発信をより進めていきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)	
5	教職員の働き方改革の推進	① 教職員一人ひとりが、有機的に連携協働し、具体的な手立てを明確にすることを通して、業務の効率化に対する意識を高め、働き方改革を推進する。	各課・科・学年の主任	【努力指標】 教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいる。	教職員一人ひとりが、意図的・計画的に時間外勤務の減少に向けて取り組んでいるとする肯定的評価が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満 <b>C 評価 78%</b> (昨年=76%) A 28% + B 50% = 78%	年次進行で新学習指導要領に基づく観点別評価の学年が増えていることや、通常の学校行事等の実施に伴う業務の増加はあるものの、A評価が前年比2ポイントながら上昇し、A、B合わせて78%となった。今後も教科、分掌、学年等での情報共有や更なる工夫を積み重ね、働き方改革を進めていきたい。	C以下の場合、改善策を検討する。	7月と12月に、教員にアンケートを実施する。 (教員の学校評価)

